

沖縄県国頭村

議会だより

第112号

平成31年2月28日発行

題字：奥間小学校6年 きんじょう まりあ 金城 茉莉愛(浜)



節分記念にハイチーズ(くにがみこども園)

○平成30年第8回(12月)国頭村議会定例会のあらまし	2
○平成31年第1回(1月)国頭村議会臨時会のあらまし	2
○一般質問.....	3
○議会活動.....	12

発行：沖縄県国頭郡国頭村議会
電話：0980-41-5203

編集：議会広報委員会
FAX：0980-41-3737

印刷
株式会社 近代美術

平成30年第8回 定例会(12月)

議案番号	件名	議案等の概要	結果
議案第68号	平成30年度国頭村一般会計補正予算(第4号)	歳入歳出それぞれ157,991千円を追加し、6,207,518千円とする	原案可決 (全会一致)
議案第69号	平成30年度国頭村簡易水道特別会計補正予算(第1号)	歳入歳出それぞれ10,930千円を追加し、283,350千円とする	原案可決 (賛成多数)
議案第70号	平成30年度国頭村後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	歳入歳出それぞれ4,000千円を追加し、56,185千円とする	原案可決 (全会一致)
議案第71号	国頭村職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	沖縄県人事委員会の給与勧告及び他の市町村の給与改定等を考慮し、給与改定を行う	原案可決 (全会一致)
議案第72号	単純な労務に雇用される職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例について	沖縄県人事委員会の給与勧告及び他の市町村の給与改定等を考慮し、給与改定を行う	原案可決 (全会一致)
議案第73号	国頭村過疎地域自立促進計画の一部変更について	国頭村過疎地域自立促進計画の一部を変更	原案可決 (賛成多数)
議案第74号	村道路線の変更について(半地海岸線)	道路改良に伴う路線の一部変更	原案可決 (全会一致)
報告第9号	議会の委任による専決処分の報告について(国頭村幼保連携型総合施設建築工事(その2)請負契約の変更)	今回変更による増額 637,200円 変更後の契約金額 117,817,200円	報告
報告第10号	議会の委任による専決処分の報告について(国頭村幼保連携型総合施設機械設備工事請負契約の変更)	今回変更による増額 2,401,920円 変更後の契約金額 153,522,000円	報告

平成31年第1回 臨時会(1月)

議案番号	件名	議案等の概要	結果
議案第1号	平成30年度国頭村一般会計補正予算(第5号)	歳入歳出それぞれ1,149千円を追加し、6,208,667千円とする	原案可決 (全会一致)
議案第2号	国頭村職員定数条例の一部を改正する条例について	主にこども園開園に伴う職員定数の変更	原案可決 (全会一致)
議案第3号	国頭村職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	主にこども園開園に伴う級別標準職務表の変更	原案可決 (全会一致)
議案第4号	辺土名川河川整備工事(H30)請負契約の変更について	今回変更による増額 6,322,320円 変更後の契約金額 149,314,320円	原案可決 (全会一致)

12月の定例議会

一般質問



知花 正寛
議員

問 奥区公民館の改築について

奥区はこれまで東部地域の地域活性化の拠点として役割を果たしてきたており、2003年には「沖繩、ふるさと百選」の交流部門で、奥ヤンバル鯉のぼり祭りの実施や共同売店の運営、修学旅行生の受け入れなどの「憩いのふるさとづくり」が評価され認定地域に指定された。

奥区公民館は築37年が経過し、老朽化が著しく区民から改善してほしいとの要望がある。先人が共同一致の精神で築いてきた奥の茶業や伝統行事「ウンザミ」「ビーンクイクイ」などを継承発展していくため、世界自然遺産登録を見据えた今

後の東部地域への観光客等の誘客効果を図るためにも、伝統芸能やジャズ・歌謡曲などのコンサートができる舞台設備と観光客等を受け入れる宿泊を併設して、滞在型観光による過疎地の地域おこしのモデルケースとして全国に情報を発信していくべきでは。

答 宮城久和村長

今後、耐力度調査をして劣化状況を確認し、沖縄県と財産処分等諸手続きについて調整していく。あわせて奥区と建設場所、用地、時期、規模等について調整しながら建設に向けて検討していきたい。

問 消防庁舎の新築について

現在の消防庁舎は、築35年が経過し老朽化が著しく、国道58号線から入り込んだ場所であり、迅速な緊急出動に

おける交通上の条件での難点、庁舎の狭隘化などで機能不足がある。防災機能を整備し防災拠点施設としての役割も兼ね備えた消防庁舎を建設すべきでは。

答 村長

消防は行政事務組合で組織し、3村の負担で運営している。消防庁舎建設は消防本部との協議をはじめ3村の合意形成が必要である。

問 ホテル誘致について

リゾートホテル誘致については、平成20年12月議会以降、幾度となく時の村長に問題提起をしてきた。

平成30年度施政方針から「雇用創出や観光客の増加に繋がるリゾートホテルの誘致可能性について引き続き取り組んでいく」との文言が消えている。今後どのような取り組みでいくのか。

答 村長

平成27年度に立地可能性調査を実施し、数社が候補地を視察した経緯があるが、その後大きな動きはなかった。今年6月に県外企業が本村を訪れ話し合った。その際に3ヶ所の候補地を視察し、持ち帰って検討はしている状況である。

また、沖縄県からホテル立地の調査があり、本村から数か所を候補地として回答した。

今後とも沖縄県と連携し、情報収集に努め企業へのアプローチを積極的に進めていきたい。

問 クルーズ船の誘致について

世界自然遺産登録を見据え、大幅な観光客等の移動人口の増加が予測されるので、海上交通手段による観光客の誘客を図るために、本村にクルーズ船を誘致すべきでは。

答 村長

本村においては、どのような手法で、どのような客層をターゲットにするのかを含め、クルーズ船の動向に注視しながら、関係者と意見交換を重ね、早め方向性を決定できたらと考えている。

問 北部基幹病院について

沖縄県との協議内容、北部12市町村での協議内容など進捗状況は。

答 村長

これまで4回協議会が開かれ、沖縄県から平成35年に供用開始の工程表が示され、経営主体や経営形態の内容が示され議論をしてきた。

今後とも12市町村や北部医師会の意見を踏まえ、市町村間での合意形成が図られるよう議論を継続していく。

一般質問 12月の定例議会



渡口 直樹 議員

第4次国頭村総合計画 見直し策定について

本村は、平成29年度以降の村づくりの指針となる総合計画の見直し策定が行われている。後期計画実現に向けた、今後の具体的な方向性や取り組みを伺う。

村民と行政の協働による村づくりを目指す。村民の意識向上に向けた取り組み及び行政運営の現状と課題は。

宮城久和村長

各集落を回り意見交換会やシンポジウム、ワークショップ等の開催を通じて村民の声や意見の把握に努めているところだが、一部において、住民の参加が少なく、十分な村民の意

見を集約できていない現状もあり課題となっている。

村民の意見や要望を受け入れるため、村広報誌の充実、ホームページ等による情報発信の他、各集落単位での事業説明会を開催し、村民が気軽に参加できる環境整備に努め、村民と行政の協働による村づくりを目指す。

世界自然遺産推進室の現状課題と、今後に向けた重要な役割は。

村長

国頭村としては、「やんばるの森」の多彩な魅力を通して、やんばる・琉球、ひいては我が国の自然や歴史の豊かさが、世界に負けず劣らず貴重かつ重要であることを広く認知してもらいたい。

本村が目指す「むらづくり施策」をどう加速させていくか、経済効果と地域還元との好循環を具現化していくこと

の重要な任務を、世界自然遺産推進室は担うものと考えている。

今後は、関係課との連携を強化すると同時に、地元企業や、本村と協定を結んだ方々との連携を一層深め、各施策の推進・加速に努める。

一次産業及び観光産業における世界自然遺産登録に向けた、現状課題は何か。また産業振興発展に向けた可能性は。

村長

観光産業での現状課題として、2020年に仮に世界遺産登録がされた場合を含め、多くの外国人観光客の来村が想定される。外国人目線の受入れ対応の構築が必要と考えている。

また、世界自然遺産に登録されると、遺産価値のブランド化による生産基盤等をつくることで、従事者の生産意

欲、品質の向上と差別化が図られ、安心安全な農林水産物の提供が期待される。

そのためには、関係機関と連携し生産者育成を推進し、農林水産業発展につながるよう努める。

学校教育における世界自然遺産推薦地をいかした、具体的な取り組みは。

村長

学校教育では、村内教諭向けの自然体験学習を行っている。

各学校では「ヤンバルクイナ生息状況調査」「水生生物調査」等があり、村学推実践報告会にて発表を行っている。また、国頭村・北斗会中学生交流事業を行うとともに、「くんじゃん山学校」と題した自然体験活動を年8回活動に向け取り組んでいる。各小学校からの依頼による史跡の案内や文化財遺跡の試掘体験等に

取り組み、今後も世界自然推薦地にある文化財を、教育に活かす方策を検討する。

本村の自然環境を紹介する等、中核となる施設を国や沖縄県に對し誘致活動を行う考えはないか。

村長

国頭村としては、推薦地域である「やんばるの森」を含めた自然環境の魅力を存分に紹介してくれる案内人の増強や展示の強化等、「ウフギー自然館」の機能拡充の要望をしている。

また、「世界遺産フィールドセンター」【体験フィールド拠点】(仮称)が示され、国頭村への整備に向けて調整して行きたい。各種施設におけるさまざまな情報発信・普及啓発を更に強化するとともに、あわせて必要な施設の誘致に努めてまいりたい。

一般質問

12月の定例議会

金城 幸男
議員

問 安波地内、村道福地線の災害箇所における早期改修策について

安波地内における村道福地線は、以前は区民の生活道路、避難道路、通学路として利用され、現在においてもその周辺は、滝やウタキ等豊かな自然環境を要した道路であり、安波地域づくりと東部周遊拠点総合連携プロジェクトにおけるワークショップの中においても、散策路等を活用した安波区の活性化計画についての話し合いが行われていると聞いており、この周辺は散策路に最も適した場所だと思われる。

しかしながら、現在においても15年以前の災害により、依然とし

て通行止めの状況が続いており、区民の皆さんから早期の開通を求める声も多く、これまで二度にわたり本件における要請書の提出も行ったと聞いた。

そこで、長期にわたり改修できなかった原因及び今後における早期改修に向けた善処策について村長の所見を伺う。

答 宮城久和村長

平成20年3月には村の概略調査として、安波福地線調査委託業務が発注されている。

調査の報告内容は、崩壊箇所付近において、路体、路面の傷みが大きく、河川沿いの擁壁等においても路体が偏倚し、路面にはテンションクラック（張力による亀裂）が発生している。

道路の機能を回復するためには、崩壊部分の対策工法だけではな

く、路線全体の機能改善を講ずる必要があり、莫大な費用が必要なため、脆弱な村予算での対応はかなり厳しい状況であるが、投資効果も含めて検討していきたいと考えている。

再質問

先ほど村長の答弁において「検討していきたい」との答弁があつたが、私は、1回目

目は、区長も含めて調査をし、その他二度にわたり現場の調査を行なった。確かに災害箇所は「交通止め」のための柵が2カ所、設置されていた。その中に入ってみると、土砂の崩壊や堆積があり、また雑草等も生い茂り、大変危険な状況であると感じた。

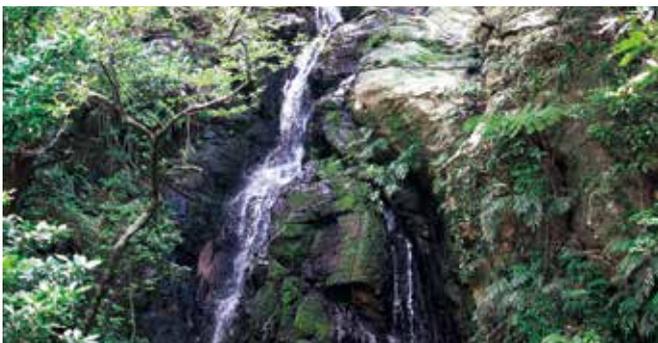
災害箇所を解消することにより、村道が開通し、危険や事故から解消や区民の生活環境に大きく寄与する改修事業だと思われる。また、安波区において

は現在、安波区に計画されている道の駅との連携を密にし、集落内やその周辺を活用した散策路等も検討されており、災害箇所を解消することにより、散策路活用における誘客を促進し、地元の食材を活用した安波区の活性化計画にも大きく寄与する改修事業だと考える。

以上のような事から村道安波福地線の災害における、早期改修に向けた村長の所見を伺う。

答 村長

議員がおっしゃるように、今安波に道の駅をつくる計画である。集落内の散策路もつくって、回っていただきたい。集落に近い道路なので、これを何とかできないかどうか。内部で検討をして、どのくらいの費用がかかるのかも含めてスピード感をもって対処したい。



災害箇所周辺にある滝



安波村道災害箇所

一般質問

12月の定例議会



一人 議員 与儀

沖縄本島水源地域市町村へ支援に関する現状について

沖縄本島の水源地域市町村においては、水源涵養の機能維持など、他市町村にはない水源地域特有の行政需要がある。一方、これによって得られる水の恩恵は、沖縄本島すべての市町村に及んでいる、本村もその水源地域である。

このため、水源地域市町村がこれらの行政需要に基づいて実施する各事業について、県として必要な支援を行い、沖縄本島の水資源の安定的確保及び水質保全を図る目的で、平成28年度から、新規事業として、県(企画部)

及び企業局による共同事業「水源地域環境保全事業」予算総額1千万円(両部局負担割合1対1、各5百万円)を負担している。

国頭村は、3事業で事業総額468万円(助成金額410万2千円)で実施とのことだが、人口や産業の集中する中南部へと送水され、沖縄の人々が安心して暮らせる生活環境、観光産業を中心に産業全般に供給され沖縄経済を大きく飛躍、発展につなぐり沖縄県民、沖縄で展開する企業等は、大きな受益・莫大な利益を得ているにもかかわらず、現在、その対価として支払われているのは、わずか「水源地域環境保全事業」助成金410万2千円、到底納得いかなない。水源である森林は、本村の後世につなげる大切な財産であり、国頭村の大きな財源を生み出

す可能性を秘めている。

問 これまで、県関係部局及び沖縄本島内の全市町村が水源地域の環境保全について共通認識を深め、連携を

図っていくため、定期的な意見交換会の場を設置することのであったが、どうであったのか。

答 宮城久和村長

県担当部局の開催による、水源地域環境保全事業実施委員会や担当課長連絡会議等で意見交換を行っている。

問 水源地域市町村への助成金総額拡大及び柔軟な制度運用に向けて、これまでの取り組み状況を。

答 宮城久和村長

先日、県担当部署より現・水源地域環境保

全事業について、新知事の公約でもあった「やんばるの森・いのちの水事業(仮称)」として、事業の拡充を財務部署と調整しているとの説明があった。

そこで、水源地域市町村のニーズを把握するため、平成31年から平成35年度の事業要望調査の依頼があり、役場の各部署に調査して要望事業計画(案)を提出した。

これまでの事業の対象範囲は、企業局取水施設が取水する河川の流域を対象流域としていたが、新事業(案)では、流域を中心とする水源地域とされており、ほぼ村全体が対象範囲と要件が緩和される内容となっている。

また、対象事業についても、これまで水源涵養機能が主であったが、水源地域の環境対策の事業(拡充部分)や、水



普久川ダム

12月の定例議会

一般質問



山城 弘一 議員

住民健診、特定健診、長寿健診の受診率の向上に向けた取り組みについて

問 平成28、29、30年度の実績は。

答 宮城久和村長

	28年度	29年度	30年度
特定健診(40~74歳)	53.6%	56.7%	46.6% (速報値)
長寿健診	53.4%	60.0%	未定

過去3年間の受診率

住民健診(40歳未満)データは、直接受診者に郵送され、職場

ごとでの健診が主となるため、村では正確な受診率が把握できない状況である。
平成29年度、特定健診受診率は県内で第9位、特定保健指導実施率は第3位となっており、今後も受診率向上と、村民の健康的な生活習慣の定着と健康増進に努めていきたい。

問 平成30年度導入の健康ポイントカード導入で、受診率の向上にむずびついているか。

答 村長

健康ポイントカードは健診の受診率向上を目指すために行っているものではなく、国の指針として今年度から市町村での実施が義務づけられており、村民の健康づくりの意識を高めることを目的として行っている。
また、ポイントカード特典の交換条件として、健診受診を必須項目として挙げており、

ポイントカードを案内する際に、健診受診の説明を行い受診率の向上に努めている。

問 病気の早期発見のため、健診の受診は必要と思うが、受診を受けない方々に声をかけて受診を受けてもらう方法はとれないのか。

答 村長

未受診者対策としては、受診勧奨ハガキの送付を平成29年度は12月と3月の計2回、平成30年度は10月と12月と2月の計3回を予定している。その他に柑広報誌への掲載、村文化福祉まつりなどの掲示等で受診勧奨を行っている。

更に今年度から、保健師と看護師で健診未受診者の全戸訪問を実施して、受診を促すと共に健康意識を高めることや、疾病の早期発見、早期治療についての説明を行い、村民の健康増進に努めている。

台風24、25号の被害農家支援について

問 現在の農業振興補助金の中で、有機肥料が40%、農薬25%、化学肥料が10%となっているが、台風被害からの早期の復旧のために、化学肥料の即効性が求められており、現在の補助率の10%から20%ないし30%に引き上げることは検討できないか。

答 村長

平成30年9、10月に襲来した台風24、25号は甚大な被害を与え、JAおきなわの試算では10月9日時点、沖縄県全体で19億6千万円の被害額が発表された。国頭村の農家にも甚大な被害を与えている。農作物の樹勢回復のためにも化学肥料は不可欠であり、行政として支援を実施する上で、より効果的な事業を確実に実施できる方法を模索している。

「国頭村農業振興補助金」を基盤にした支援策を関係団体と調整をしながら実行していきたい。

問 台風後、有害鳥獣被害が多くなっているが、行政として特別な対策は検討できないか。

答 村長

要因は台風により、山に自生する木の実や果樹等、鳥獣の餌が減少したこと餌を求め、畑や集落周辺まで降りていると考える。
被害対策として、これまで以上に農家や鳥獣被害対策実施隊と情報共有を密にし、迅速な対応を行えるよう努める。
今年度、ICT技術を駆使し、遠隔操作での捕獲が可能なイノシシ大型捕獲器の実証実験を行っている。従来よりも効果的かつ効果的な対策方法を検討し、農作物への被害軽減に努める。

12月の定例議会

一般質問



宮城 誠
議員

鏡地水門改修工事について

問 近年、国内では気候変化に起因する暴風雨や集中豪雨による河川の氾濫などの風水害及び土砂災害が多発している。辺土名、奥間の農地改良区でも暴風雨や大雨が降るたびに道路冠水被害や、農地水没被害が頻繁に起っている。今年も台風や大雨の際、幾度も被害があった。原因は鏡地水門の排出能力にあると思う。水門の改修工事を行えば、道路冠水被害や農地水没被害も防げると考える。

答 宮城久和村長

鏡地水門については、昭和53年度から昭和60年度にかけて県営ほ場整備事業により整備された。

問 今まで周辺地域住民からの苦情や改修要望はなかったのか。

答 村長

集中豪雨時には道路の冠水や農地の湛水被害が確認されている。平成18年度には鏡地区長から整備要望書の提出があった。また平成28年度には行政懇談会で整備の要望があった。

問 改修工事の計画があるか。

答 村長

平成29年度に事業採択が決定され、平成30年度新規事業として当初

予算に計上している。今年度の事業を沖縄県に確認したところ、今月中に補助金交付が決定することと、今年度は実施設計、31年度に改修工事を実施する予定である。

問 周辺農地排水路の整備等は計画されているか。

答 村長

現在は無いが、水門改修後の状況を確認し、整備について検討したい。

兼久集落内の村道拡張について

兼久集落の道路は、碁盤上に整備され交通の便は良いようにつくられている。しかし、鏡地辺土名線のパンク修理屋前から、国中グランドに通じる道路で途中から車両が通れない区間が約20メートルある。

これまでの経緯を確認したところ平成10年度に、辺土名区長から現道敷地内で排水溝及び道路舗装の早期施工に

ついての要望により、平成11年度に整備を実施している。

道路拡張となると道路の両側には民家のブロック塀やフクギが立っていて、用地補償や物件補償等、多額の費用を要するとともに地権者の同意が必要である。集落内での道路拡張を実施するにあたっては、地域の区長を中心合意形成を図り、必要性及び関係地権者の同意を得たうえで要請していただき、事業の実施について検討したい。



鏡地水門

12月の定例議会

一般質問



宮城 千賀 子 議員

問 文化・福祉まつりの開催方法の見直しを

去った十月二十八日（日）に文化・福祉まつりが開催された。各種団体の作品展示をはじめ、漆喰シーサーづくり・科学教室・エア遊具等の盛りだくさんのイベントブースが会場いっぱい設置されていた。しかし、残念ながら来客者が少なく盛り上がり欠けていた。以前は、文化協会の舞台発表と同日に同じ場所で行われていたが、現在は別々の開催となっている。展示出展者には、来客が少なくやる気がなくなると落胆された方もおり、以前と同様、文化福祉まつりと文化協会の発表を同時開催して欲しいとの要望が多く聞かれた。

生涯教育の大切な役割を担っている各種サークルの発表の場は、日頃の活動成果を多くの村民に見てもらおうとでやる気を起こし、更なる向上へと繋げるものでなくてはならない。又、内容や時間配分、場所等についても課題が多い。まつり終了後の検証と、今後の開催方法は。

答 宮城久和村長

二十二年度から二十六年まで、同日、同じ場所で行っていたが、現在は日程と場所を分けて実施している。その理由は次の三つ。

- ①総合体育館の舞台設置がかなり負担となり、舞台施設も老朽化している
 - ②演者控え室の確保が困難
 - ③幕の上げ下げが手動であるため、演目ごとの開閉が難しく、舞台進行に時間を要する
- 以上のことから総合体育館での舞台発表が困難と判断し、ふれあ

いセンターを活用し、場所を分けている。

まつり終了後、アンケートの集計、展示の部・福祉の部・舞台発表の反省会を行い、いづれからも同時開催案が出た。

その他意見として、グラウンドゴルフ、漆喰シーサー教室について、老人会・婦人会と限定しない募集。村外の福祉事業所の参加。上方への送迎バス。開催曜日時期・時間の見直し等の意見があった。今後の開催についてはこれらの意見を踏まえ、実行委員会で検討していきたい。

問 スポーツツーリズムの推進を

これまでのスポーツ合宿誘致の実績を生かし、本村の優れた自然環境をより地域経済の活性化に繋げるために、「スポーツツーリズム」の推進を図る必要がある。スポーツツーリズムと

は、スポーツを「観る（観戦）」「する（楽しむ）」「ためだけでないく」、「支える」ことを付加し、観光客による観戦・イベント及び周辺地域への訪問の促進、観光産業やスポーツ・健康産業などの需要喚起による地域活性化を図るものである。

特に、スポーツ合宿を継続的に発展させるためには、「支えるスポーツ」として、地域全体で盛り上げることが不可欠だ。さまざまなおスポーツと関わりながら、地域を活性化するスポーツツーリズムについての考えは。

答 村長

二十九年度の合宿実績は四十八団体。二十八年より五団体増で順調な伸びを示している。このことは、野球やサッカー、陸上競技などのプロ選手やオリンピアなども含まれており、多くのファンが本村を訪れ（観るスポー

ツ）」、又、商工会・観光協会とタイアップした「支えるスポーツ」の取り組みにより、合宿団体の誘致増に繋がっている。

大会の運営サポートを行うスポーツボランティア活動等の支えにより、宿泊等の直接的な経済効果だけでなく、地域での土産品購入や飲食店利用等の間接的経済効果をもたらせている。

又、トレイルランニング大会やツールド沖縄、小学生駅伝、少年野球大会など数多くのイベントが開催されることで来訪客が増え、地域に活力を与える「するスポーツ」の役割を果たしている。

世界自然遺産登録を目指す自然環境の中で、スポーツ施設を含め、長距離走習時の走行車両が少ない道路等の利点を生かした魅力的なスポーツ資源を最大限に活かす「スポーツツーリズム」を充実させていきたい。

一般質問 12月の定例議会



山川 安雄 議員

世界自然遺産登録における利用について

問 世界自然遺産に登録されると林業分野・農業分野・水産業分野・観光分野でのようなメリットがあると考えているか。

答 宮城久和村長

第1次産業分野では生物多様性豊かな森と沖縄県の水産を担う川、そこから注ぎ込まれ島を囲む大海の恵みである産物と加工品の購買促進、産業従事者の生産意欲の向上に繋がり、ひいては更なる質の向上や第6次産業化を目指すきっかけにもなり得る。

第3次産業の軸となる観光分野では世界自然遺産というネームバリューから来訪者の

増加や国際観光の進展が見込まれ、国頭村の魅力発信及び来訪者ニーズへの対応の強化によって安定的な来訪者の獲得と持続的な経済発展につながる。このように自然と暮らしが豊かな国頭村ならではの産業振興に寄与するものと考えている。

問 国頭村には森林業を人と生き物が持続的に享受する森林の管理体制「の考え方がある。

答 村長 都市部については、木材利用・普及啓発等に活用することが想定される。森林環境整備事業の理解を深めるため、都市部の子どもから大人までの受け入れや木工製品の供給体制を整備することにより都市部から本村に対し森林環境譲与税を活用した施策も可能であると考えている。

第3次産業の軸となる観光分野では世界自然遺産というネームバリューから来訪者の

国頭村森林ゾーニング「再生するところ」について

問 平成23年に「国頭村森林地域ゾーニング計画」ができた。その中で村民は「再生するところ」に関心と期待を寄せた。世界自然遺産の推薦書、沖縄県北部行動計画、国頭村計画の中で自然再生事業、流域・藻場の再生はどのような位置づけか。

答 村長

森林ゾーニング計画を策定する際に集落からの意見聴取を行ったが、多くの集落から「流域の再生」（小さいころ過ぎした生物豊かな河川

へ戻してほしい）との声が多くあった。さらに漁業組合関係者からは、山林の再生なくして沿岸漁業の復活はないとのこと。10年ほど前から流域再生の提案がなされている。河川を含む自然再生事業は世界自然遺産登録を目指す本村でこそその取り組みになり、若者の雇用機会を作る重要な施策だと考えており、村内で実施できるよう検討していきたい。

県道2号（横断線）について

問 地域住民は台風時や倒木が心配で大きく迂回して通ることが多くあるとのこと。管理者である沖縄県北部土木事務所他の機関に国頭村当局からカーブやゼブラ工法の路面改良、インフラ早期復旧、倒木や法面崩壊事前対策を生活者の声として相談、進言した経緯は。

答 村長

平成25年度以降区長や行政懇談会における要望に基づき、県道2号線中間付近の道路線形の改良、幹線道路としての車線拡幅や国道への編入、法面崩壊箇所の早期復旧を沖縄県土木建築部と北部市町村の行政懇談会や、沖縄振興拡大会議への要請・要望事項として提出している。危険な状況の木を伐採、「ゼブラ工法を撤去してほしい」という要望を平成27年3月3日づけで、沖縄県北部土木事務所長あてに要請の進達を行っている。



台風による倒木箇所

12月の定例議会

一般質問



山城 正和 議員

やんばるの森、いのちの水基金(仮称)創設の対応について

問 やんばるの森、いのちの水基金(仮称)の創設の実現に向けて、県政と連携し、どのような取り組みをなされる方針なのか。

答 宮城久和村長

現・水源地域環境保全事業について、新知事の公約でもあった「やんばるの森・いのちの水基金(仮称)」として、事業の拡充について財務部署と調整している。県では、水源地域市町村のニーズを把握するため平成31年度から平成33年度までの事業要望調査を実施しており、本村では各部署の計画を調査の上、事業計画(案)を提出した。

しかし、水源地域市町村への対価として十分と思われ、今後も助成金等総額拡大へ向け、県担当部局へ要望を行う。

問 やんばるの森、いのちの水基金(仮称)の創設と、世界自然遺産登録を目指しての県と村とで意思疎通を図るため、意見交換会を早期に設定して、実現する取り組みができたか。

答 村長

現事業の水源地域環境保全事業の拡充を検討しているとのこと。現行の水源地域環境保全事業実施委員会や担当課長連絡会議等で、世界自然遺産登録にも合致するような提言をしていきたい。

辺野喜楚洲線の国道58号から辺野喜ダムまでの路面舗装改修計画について

問 世界自然遺産登録を見据えて、西銘岳の周辺や辺野喜ダム湖及び公園広場、星座観察施設とトイレや駐車場など整備された既存施設を有効に活用したエコツアーの活動の拠点となる要素が強い、重要なアクセス道路、2級村道路線である。辺野喜楚洲線の国道58号から、辺野喜ダムまでの路面舗装改修計画について検討されているのか。

答 村長

辺野喜ダム関連道路として整備し、村に移管され経年劣化による老朽化が見受けられることから、平成27年度に概略調査を実施し事業採択に向けて取り組んでいる。

今後、世界自然遺産登録に向けた取り組みを図る上で重要なエリアであり、そのアクセス道路としての重要性を鑑み、社会資本整備交付金等を活用し、舗装路面の改修を行うことが可能かどうか沖縄県

と調整を図る。

国頭中学校及び各小学校体育館屋根の補修計画について

問 屋根の腐食が目立つようになっているが、その現状調査と補修計画はどのようなものか。

答 村長

塩害によるサビ等による端部の損傷等で、めくれ上がっている箇所があり、そのまま放置すると雨漏りのほか、建物全体への影響が生じるなど、台風等強風時に人身及び人家への飛散による被害が懸念されるため、今後劣化状況等の調査を早急に実施し危険性の高い学校から随時補修を行う。

旧辺野喜分校体育館屋根の補修計画について

問 屋根は腐食して、一部屋根材が落下するなど、早急な補修が必要

な状況にあるが、その補修計画はどのようなものか。

答 村長

特に劣化が著しく台風24号により、一部が人家近くまで飛散しており、地域住民の安全な生活を確保するために、年度内に補修する。

他に次の質問が出されました

- やんばる国立公園の地権者への制度の周知について。
- 謝敷海岸保全への必要性について。
- 蔡温松並木公園とヤンバルクイナ展望台の管理について。
- 安波ヒラバタ公園の管理について。
- 安波海岸の越波による海岸から河川側への砂利流出の防止対策について。
- 新規職員採用について。

議 会 活 動

[平成30年12月～平成31年2月]

12月

- 5日・議会運営委員会
- 6日・国頭村学校改革推進委員会実践報告会
- 7日・第8回国頭村議会定例会
至14日
・北部市町村議会議長会総会
- 9日・第6回国頭村トレイルランニング大会
- 11日・商工会忘年会
- 15日・日体体育大学と北部広域市町村圏事務組合とのスポーツ振興に関する連携協定調印式及び懇親会
- 20日・「道の駅」ゆいゆい国頭忘年会

1月

- 5日・第56回国頭村成人式
・国頭村新春年始会
- 6日・消防出初め式
- 11日・J Aおきなわ北部地区「新春の集い」
- 13日・国頭村幼保連携型総合施設落成式・祝賀会
- 15日・北部広域市町村圏事務組合議会臨時会
・国・県出先機関の長と関係団体等と北部市町村との新年会
- 19日・国頭村産業まつりオープニングセレモニー
- 20日・産業まつり杯チーム対抗パークゴルフ大会
- 24日・沖縄県建設業協会北部支部「新春の集い」
- 25日・北部振興会総会
・産学官連携事業「クルーズ船受入に関するシンポジウム」
- 28日・議会運営委員会
・第1回国頭村議会臨時会
- 30日・町村議会副議長研修会・交流会
- 31日・新人議員研修会
・奄美・やんばる広域圏交流推進協議会総会

2月

- 3日・総務財政委員会所管事務調査
- 6日・議会パークゴルフコンペ
- 11日・北斗会総会並び敬老会
- 12日・議会広報委員会
- 13日・町村議会議長会定期総会
- 14日・町村議会女性議員交流会
- 15日・町村議会議員・事務局職員研修会
- 20日・北部三村(国頭・大宜味・東)議会議員・事務局職員研修会
- 21日・沖縄県町村会70周年祝賀会
- 22日・文教経済委員会所管事務調査
- 23日・J A国頭支店まつり
- 25日・日本ハムファイターズ夕食会

議会傍聴へのおさそい

村議会は3月、6月、9月、12月と年4回の定例議会が開催されます。
村民多くの方がご来場いただき、傍聴くださいますようお願いいたします。

一般質問の内容は

一般質問通告書の質問・答弁を基本に(会議録に基づき)各議員でまとめ、議会広報委員が確認したものを掲載しています。

ゆんたく
さびら



命薬の景色(辺戸岬)



命薬の森コンサート

ヌチグスイ ～命薬の里～ 国頭

短い言葉で村の将来ビジョンを表現するとどんな文言?という質問に対しての村長の答えです。

やんばる国頭の自然、文化を含む環境は心の栄養になる命薬(ヌチグスイ)。

命薬の里に暮らす私達村民がその豊かさを誇りに思い、育み、これからの村づくりに活かしていきたいです。

～命薬の里～ 国頭を
村内外に広げて定着させたいものです。

(山川 安雄)

※前回までの「議員のひとこと」を今回から「ゆんたくさびら」に変更しました。